東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリー・テーマ

地域を育み、
大地をつなぐ

地域を育み、大陸をつなぐ

Vol.44　第2157回例会　2011.2.17

今年度会長テーマ　温故知新　そして　和

■司会：
中條例会運営委員

■点鐘：山本会長

■合唱：ロータリーソング
「日も風も星も」

◆ソングリーダー：
熊木会員

■お客様紹介：
戸澤パスト会長

◆入会予定者：
野村裕夫様

■入会式

■入会者紹介：中丸幹事

昭和41年東京都日野市生まれの44歳で、前任地は多摩市の永山支店より今般東村山支店に赴任しました。これからは仲間として活躍して頂けるものと期待しています。

■入会者紹介：
山宮　隆会員
（多摩信用金庫
東村山支店支店長）

皆さんこんにちわ。多摩信用金庫の山宮と申します。前任の高橋は、皆さんのお蔭で楽しいロータリーライフを送ることが出来たとの事でした。このような気持ちになるにはどうしたらよいのか。今から退会時の話をするのは変ですが、そのような気持ちになれるよう頑張って活動したいと思います。ご指導の程宜敷お願い申し上げます。今日は本当に有難うございました。

■会長報告　山本会長

皆様こんにちは。本日は東京東村山ＲＣ創立44年を記念致しまして記念例会とさせて頂きました。またささやかではありますが、お祝いのお赤飯をお弁当に入れて頂きましたのでご賞味下さい。卓話には野澤パスト会長に創立44周年にちなんでの話をお願い致しましたので、色々と懐かしい話、秘話なども聞けると思いますので是非ご清聴をお願い致します。
さて、今日は何を話そうかと色々考えましたが、44周年記念例会に因んで、我がクラブの沿革と歴代会長をご紹介して、野澤パスト会長の前座の話をしたいと思います。
◆ＲＣとは？
ロータリーは人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目的とし

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／野村　高章　石山　敬
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500

た事業および専門職務に携わる指導者が、世界的に結びあった団体である。
◆沿革(抜粋)
1967年２月「東村山ロータリークラブ」創立(会員26名)
1967年10月　西武園に於いて認証伝達式

先週の卓話で、日墺文化協会常任理事の岩田様がありましたが、そのお礼状が届いています。また、2月15日に多摩分区連絡会があり、安部ガバナー補佐の他に栗原次年度ガバナー補佐・藤野次年度分区幹事も出席されました。会員の減少に歯止めが掛からず、各クラブで色々入会に工夫をしているようですが、現状では減少が多いとの事。次年度のガバナー訪問については、一括方式ではなく、各のクラブで個別に実施していただく方向。その他決定事項は、ＩＭが平成23年10月12日(水)。地区大会が平成24年2月21日～22日帝国ホテルでの開催が決定しています。

スローガン復唱。「温故知新」古き　を　たずね　新しきを　しれば　もって師となるべし。
①例会に出席し、メンバー間の懇親を深め、自分自身に有意義な例会を見つけよう。
　そして自分自身の例会出席の楽しみを見つけよう。
②例会を欠席したら、メークアップを必ずしよう。
③入会時のスポンサーは新人メンバーのメークアップの面倒を必ず見よう。
④食事の廃棄を少なくする為に例会を欠席する時には、前々日までに事務局に連絡を入れよう。
⑤夜間例会、懇親会、旅行に奮って参加しメンバーの懇親を深めよう。
⑥クラブメンバーの全員卓話を盛り上げよう。
⑦マイ箸を失くさない様に使おう。
⑧交換留学生をしっかりと育てよう。
⑨阿部ガバナー補佐の掲げた、キャッチアップ90
　(出席率90％以上)を実現しよう。
1月も出席率平均90％を達成しました。2011年2月17日の例会は、2月23日の我がクラブの創立記念日に因み、創立記念100％例会としたいと思いますので是非是非皆様のご協力をお願い致します。

■幹事報告　　中丸幹事

■日本オーストリア文化協会：
　御礼状の受理(岩田氏より)

■東京武蔵村山ＲＣ：
　「幹事会の案内」について
　2011年3月4日(金)　19:00～
　於　「五色」

■職業奉仕委員会：
　「京都の老舗17店舗に学ぶ」読後感想文のお礼について

■国際ロータリー：
　ロータリー・リーダー2011年1月号

■回覧：ハイライトよねやま

■出席報告　　樋口例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
35	31	1	2	93.75

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：2名
■前々回出席率メークアップ修正後：93.55％
■前々会メークアップ者：
　相羽会員：新宿ＲＣ
　北久保会員：所沢中央ＲＣ
　熊木会員：所沢中央ＲＣ
　枕山会員：日高ＲＣ
　町田会員：東京秋川ＲＣ
　目時会員：所沢西ＲＣ
　嶋田会員：理事会

■ニコニコＢＯＸ　　相羽例会運営委員

■皆出席：
　樺澤会員(14回目)

◆金子会員：野村裕夫(ひろお)さん、ようこそいらっしゃいました。楽しいロータリーに是非ご参加下さい。
◆野澤会員：野村さんようこそいらっしゃいました。どうぞお気が向いたら仲間になって下さい。お待ちしています。
◆山本会長、中丸幹事：
　山宮さん入会おめでとうございます。
　野村さんようこそおいで下さいました。

ぜひ入会をお待ちしております。ご一緒に楽しいロータリーライフを送りましょう。

◆山 宮 様：本日入会式を開いて頂きありがとうございました。

◆神﨑会員：ロータリークラブ創立44周年、誠におめでとうございます。私も入会して約22年目に入る訳ですが、どうか会員の皆様、今後とも楽しいクラブでありますよう頑張りましょう。野澤会員ご苦労様です。

◆目時会員：山宮さん入会おめでとうございます。頑張って下さい。

◆田中会員：創立記念日、新入会予定の野村様、二重、三重の喜びおめでとうございます。最近俳句にこってまして一句「春が来た東村山 桜咲く」。野澤さんの卓話を聞いて感動しました。

◆小町会員：山宮様入会おめでとうございます。

本日のニコニコ合計：　24,000円
累　　計　：　955,019円

■ゲスト挨拶

■野村クラブ管理委員長

週報編集担当者が健康上の理由で近々入院することになりました。今月中の例会週報は大丈夫なのですが、来月の週報が若干遅れ気味となりますので、週報を楽しみにされている会員も多いと思いますが、何卒宜敷お願いいたします。
先日春の親睦旅行の下見に行って参りました。大変素晴らしい所です。今日現在で23人の出席で、その内5組のご夫婦の参加希望が有ります。近日中に旅行行程表を作成し、皆様に直接ＦＡＸする予定です。次週が地区大会等で、3月も忙しいと思われますので、皆様のお手元に直接届くようにしたいと思います。

■卓話(創立45周年にむけて)

■卓話者：
野澤パスト会長

ロータリーの夜明け　－5年間の愚行－

ポール・ハリスが3人の仲間、石炭商のシルベスタ・シール、洋服屋のハイラム・ショーリ、そして鉱山技師のガスターバス・ローアとともに、1905年2月23日初めての会合を持ち、これがロータリー創立の出発日であったことはあまりにも有名な話であります。しかしポール・ハリスはここに至るまで約10年間にわたり社会の荒波にもまれ修行してきたものです。

ポール・ハリスは1891年、アイオワ州立大学を卒業し弁護士資格を取得したのですが、先輩の祝辞に「卒業生はすぐ一生の仕事にかかることなく、まず5年間は田舎の小さな町で生活し、人の営みをよく観察し、その後大都会に出て一生の仕事を始めるのがよいであろう」。と言われポールはこの言葉を真に受け行動を起こすのですが、ポールには財産もなかったので到る所で生活費を稼がなければならなかったのであります。
まず彼はアメリカ大陸を横断しサンフランシスコに行きました。そこで最初の仕事は有名な新聞社の通信員となりました。以後南カリフォルニアの農業地レーズン箱詰め工場、ロスアンゼルス商科大学の講師、コロラド州デンヴァーでは俳優となり多くのファンを得た。次いでロッキー・マウンテン・ニュースの記者、同地郊外の農場ではカウボーイに、そして再び同地新聞社の記者、フロリダに移り一流ホテルの夜勤事務職員、大理石会社の外勤営業部員となり、合わせてアメリカ諸州を旅行しながら見聞を広めたのです。その後イギリス行きを実現すべく家畜運搬船の水夫、缶詰工場等で働き、ロンドンをはじめいくつかの地方を見物することができました。

1893年アメリカに帰国し、シカゴで開かれた世界博覧会を見るため再びシカゴを訪れました。この会場で日本のロータリーの創立者米山梅吉が通訳として働いており、二人は会場ですれ違っていたかもしれません。その後友人のクラークの大理石会社に再び雇われ、クラークの好意によりヨーロッパ諸国を訪問し一層の見聞を広めるに至りました。

ポール・ハリスは4年9ケ月の歳月を費やし、あらゆる職業体験と世界数カ国の伝統文化を体得し、その豊富な人生遍歴を携えてシカゴに居住することになりました。同時に弁護士事務所を開きシカゴでの仕事が始まるのです。しかし大都会シカゴの生活は彼の心の中に何かしら満たされぬものを残すのです。それは心の友の欠如、大勢の人間のいる大都会での孤独感、週末や日曜日にはたまらなく寂しかった。日曜の朝は教会で癒されたが、午後は何とも耐えがたかった。多数の人の存在から来る疎外感、それがポール・ハリスの心をいたく傷つけたのです。

そんな生活を1896年から4年間送り、ある時友人の別荘に招かれ話をするうちにポールは少年時代の血の通った交友がこの都会でも可能なのだ、ということを知ったのです。以来沈思黙考すること5年、「大都会シカゴにおいても多くの異なった職業からたった1名だけをもって組織し、政治や宗教の制約なしに互いに寛容の精神を持って集う親睦がありえないはずはない」、という考え方が浮かんだのであります。いわゆる宗教によらずして、激動社会の中でも自分たちの心を通わす付き合いを通じて、自分たちの心を癒すことができる、そう確信したのであります。そして彼は次々と友人を口説き、1905年2月23日4人の仲間のひとり鉱山技師のガスターヴァス・ローアの事務所ユニティビル711号室で会合を開いた、これがのちにロータリークラブの創立記念日となったのである。
その1年後親睦を目的とする一業一会員制の原則、奉仕を目的とする原則、これを基本とし2ケ条の綱領が作られたのです。

第一条　会員の業務上の利益を振興すること。
第二条　性質として社交クラブに伴う親睦その他の望

ましい諸点を振興すること。
ポール・ハリスは卒業後すぐに弁護士事務所を開設することなく、5年間諸国遍歴の旅に出た、それを彼はのちの著「ロータリーとわが生涯」の中で「5年間の愚行」と呼び、しかし「ロータリーの理想と友愛の中」では「5年間の放浪の旅」と呼んでいる。

ロータリーは職業人の親睦団体であります。発足当初のロータリーにとってポール・ハリスの創案した同業者排除の効果は大変大きなものがありました。企業経済、自由競争の中で自分の会社がおかしくなりかかったとき、ロータリアンは例会の場においてお互いの心が開放的であり、会員同士の信頼関係が強ければ事業経営のことでも相談できる、相談された方も全くの異業種ですから気軽にアドバイスできる、このようなことの積み重ねによってロータリアンがロータリーの例会に出席して得た功徳を身にしみて自覚する訳であります。地域社会に存在するあらゆる職種の企業経験と知恵の恩恵に浴し得る、という利点をもって自分の職業の管理が行える、というのがロータリークラブの大きな特徴の一つなのであります。この創立初期の素朴な慣行がいわゆる知恵の交換と情報やノウハウの交換をし、もってどのような不況期にも潰れない強靭な体質の企業を作り上げる原理を開発しました。その知恵の総体を1927年職業奉仕と名付けたわけであります。

創立間もない頃、シカゴクラブ第二代会長アル・ホワイトは友人の弁護士ドナルド・カーターに入会を勧めたが、内部の利益の交換と友好の増進だけでは社会的意義はない、物質的な互恵主義だけでは社会的存在価値すらない、と厳しく批判され入会を断られました。「ドナルド・カーター物語」これをうけて

第三条　シカゴ市の利益を増進し、その市民の中に市に対する誇りと忠誠の精神を普及すること。

これを作成しただちにシカゴ市内に公衆便所を設置した。同じころ牧師に馬を買ってやった、新聞少年に衣類をあげた、というような社会的寄付行為や慈善行為が始まった。

ドナルド・カーターの意見をすぐさま取り入れたポール・ハリスの柔軟性は諸国遍歴の修行で身につけた寛容の精神であろう。このときポール・ハリスが、ドナルド・カーターに対し、生意気な、お前など･･･と言って入会を断っていたらロータリーはきっと今とは違う道を歩んでいたにちがいありません。

創立三年目にアーサー・フレデリック・シェルドン入会、このころよりロータリーが社会的意義の探求をはじめ、ロータリー運動の中心に奉仕哲学が存在することを論証した。次第にロータリーの奉仕概念が形成され、創立18年1923年、社会奉仕に関する決議23-34号が採択される。

ではなぜこの決議が提案されたか、ロータリークラブが青年期に達するまでの1920年頃まではビジネス推進委員会なるものもあり、会員同士の取引も一方では盛んにおこなわれていた。1915年シカゴクラブ会員265名で年間175万ドルの取引が記録されている。(会員一人当たり6,600ドル)

しかしやがて違う目的、つまりもっとレベルの高い目的のために意見交換をする方がビジネスの交換よりも得るところが多い、ということがわかってくる、各自が働いているところ、企業でぶつかる諸問題を話し合い、新しい方法で議論することによって日常の仕事で直面する課題に対処し解決し合うことから職業奉仕という基本的な原理を見出したのである。

シカゴクラブで創立間もなくドナルド・カーターやアーサー・シェルドンが入会し、会員の親睦と利益を目的とした団体より、社会奉仕を取り入れた概念が形成され、1910年頃より公共問題担当、少年活動、障害者等担当する委員会がエスカレートし、団体奉仕活動の意義、一業一会員制より出発したロータリー本来の個人奉仕活動、この二つの議論が伯仲し、ロータリーが抱えた史上最大の論争とまで発展し、一時はロータリー分裂の危機に瀕したのです。そしてこの接点が曖昧になり1923年決議23-34号が提案可決された。(創案者テネシー州ナッシュビルロータリークラブのウイリアム・メイニアー・ジュニアとシカゴクラブ会長ウイリアム・ウェストバーグ)

その後1929年、世界大恐慌が勃発し、1930年シェルドン退会。その理由は以前より論議されていたシェルドンの提唱した He profits most Who serves vestを廃止しようという互恵主義派による決議29-7号がダラス国際大会で提案され賛成派、反対派が意見伯仲し決議されそうになった。また、身体障害児児童の救済事業をロータリーの最優先課題として実践する決議、ポール・ハリスとの意見の対立とか、いや病気だったのだ･･･。真意は定かでないが、その5年後の1935年に亡くなってます。

ロータリーが奉仕の理想を追求する団体として今や国際的な信頼を得ていますが、創立当初の奉仕哲学の確立より、高い次元での親睦と奉仕を提唱する団体としてさらに倫理運動として定着させた根底には、崇高な理念のもとに人間の心を磨く活動が展開がされてきた結晶であります。この間幾多の紆余曲折はあったが、この理念がしっかりと継承されてきたからこそ百年にわたる歴史を積み、これからも永遠に続いていくことでしょう。

ロータリーも一時拡大や会員増強に目先を奪われ、倫理運動を忘れ社会奉仕が目的であるかのような錯覚を多くの会員が持ったことも事実であります。このことは多くの識者や先輩方が憂いていた、警鐘を鳴らしていたことがたびたびでありました。

古き芭蕉の時代、不易流行ということを芭蕉は唱えました。時代は変わっていく、従って新しいものも取り入れ改革も必要だ、しかし変えてはいけないものがあることを忘れてはならない、と、正にロータリーもそうだと思います。ロータリーで変えてはならないものは「ロータリーの哲学」すなわち「ロータリーの奉仕理念」です。ロータリーの哲学を変えれば、それはロータリーではなくなるのです。決議23-34号には、この哲学はService Above Self の奉仕哲学であり、He profits most Who serves best という実践倫理に基づくものである、と明記されています。すなわちロータリーの奉仕哲学は He profits most Who serves best と Service Above Self の二つのモットーであり、この二つのモットーはどんなことがあっても変えてはならない奉仕理念なのであります。同時に変えなければならないものは、ロータリーの内部に至っては組織機構の改革や管理運営の手法であります。そしていつの時でも社会の変化に機敏に対応し、その変化に伴って奉仕活動の実践も変化していかなければならないのです。このことをしっかりと見据えていかないと、ややもすると糸の切れた凧のように、羅針盤を失った貨物船のように、社会を漂流する団体となっていくことでしょう。このことを常に考え行動することがロータリーアン自身に与えられた永遠の課題なのであります。

■点鐘：山本会長